御厩池（みまやいけ）

位　置　図

諸　元

貯 水 量	435	千m3
満水面積	10.4	ha
受益面積	110	ha
堤　　高	10.5	m
堤　　長	580	m

御厩池は、源平時代（1100 年代）に築造されたと推定されており、1818 年当時（江戸時代後期）には、配水面積が現在の 3 倍あったと言われています。また、1809 年から 1844 年には、3 度の嵩上工事を行い、貯水量が築造当初から 2 倍増加しました。本池の嵩上工事で満水位が上昇したことにより、掛井手（流入水路）の嵩上も必要となり、掛井手深さが 1.6m になったとともに、上流 1km まで湛水することとなりました。そのため、貯水中に大雨が降ると掛井手が氾濫してしまうので、満水に近づくと、貯水責任者は徹夜で掛井手を見廻ったと伝えられています。

本池の改修履歴は、1902 年に木製のユルから石のユルへの据替工事が行われ、1980 年から 1987 年には老朽ため池等整備事業によって、堤防の改修及び機械式のユルへの取り換え工事が行われました。さらに、1993 年に本池の南側にて、ほ場整備が行われたことによって、池周辺に道路が新しく完成するとともに池の護岸が整備され、池の管理がより一層容易になりました。

本池は、1959 年まで香東川の出水から古川を経て、井手掛によって導水していたため、水源が非常に遠く、当時は必要量の半分しか貯水できませんでしたが、本津幹線水路の開通による奈良須池を介した内場池用水の導水が行われたことによって、十分な用水を確保できるようになりました。豊かな水辺空間を形成する本池は、現在、周辺住民の散歩コースのほか、憩いの場として受益者だけでなく地域住民にとって欠かせない農業施設として親しまれています。

堤体

満水時